

神戸大学学報

No. 350

1985.11 庶務部庶務課発行



《昭和60年度学内レクリエーション「体育大会」開会式》 関連記事7ページに掲載

目 次

海外レポート.....1	◇学事.....15
ビュルツブルク便り ―四季と生活―	◦学位授与
医学部助教授 三 木 明 徳	◦学位取得
特別寄稿.....5	◦昭和61年度大学院入学試験合格者数調
経営分析文献センターの最近の状況について	◦昭和60年度卒業生数調
センター長 片 野 彦 二	◦昭和60年度大学院修了者数調
◇学内ニュース.....7	◇掲示板.....19
◦昭和60年度医学部解剖体祭の举行	◦職員の住所変更等
◦第3回工学部公開講座の閉講	◦改姓
◦昭和60年度学内レクリエーション「体育大会」及び「囲碁大会」の実施結果	◦受入れ刊行物案内
◦福利厚生用具類の貸出	◇日誌.....20
◇法令.....9	
◦規則 ◦告示	
◇人事.....9	
◦異動 ◦海外渡航 ◦研修等	

海外レポート

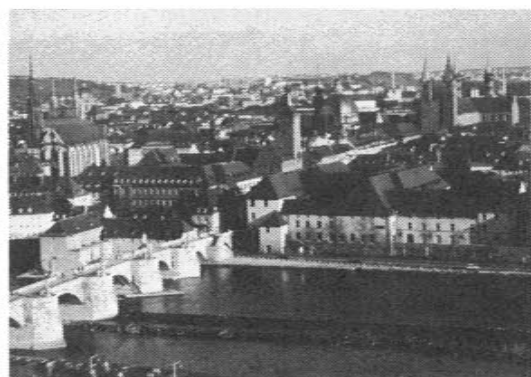
ビュルツブルク 便り

— 四季と生活 —

医学部助教授 三 木 明 徳

昭和58年7月3日から、フンボルト財団奨学研究員として約2年間西ドイツに滞在した。最初の4か月は西ドイツの西南部、黒い森のふもとにあるシュタウフェンという小さな村でドイツ語研修を受け、同年11月から昭和60年5月までの1年7か月の間、ビュルツブルク大学解剖学教室のシーブラー教授の下で研究生生活を送った。研究テーマはラット胎仔の培養と、卵黄嚢上皮の機能に関するもの。無慈悲にも、毎日毎日ねずみの赤ちゃんを小さな瓶に閉じ込めてはいじめていたのである。しかしここでは、これ以上仕事のことは触れず、私たちが過ごしたビュルツブルクの美しい四季とそこでの生活について紹介する。

ビュルツブルクは西ドイツのど真ん中、マイン川に沿った人口15万人程の町である。交通の要所であることから、8世紀中ごろローマの大司教が



(マイン川沿いに広がるビュルツブルクの旧市街。あちこちに中世の面影を残す建築が立ち並んでいる。)

置かれて以来、フランケン地方の中心として栄えてきた。今でも堂々としたバロック様式の建築物が町のあちこちに見られ、ロマンティック街道の北の起点として、多くの観光客でにぎわっている。

ここビュルツブルクに家族を迎えたのは11月も半ば、もうすっかり冬であった。街のあちこちには大きなモミの木が立てられ、クリスマスの飾り付けが始まっていた。せっかくドイツに越してきたのだから、こちら風の生活も体験してみようということで意見が一致した。当時4才だった娘には「Klo(お便所)」というドイツ語一つ教えて幼稚園に行かせた。最初のうちはどうなることかと、少しは心配していたが、何のトラブルもなくドイツの子供たちの中に溶け込んでくれた。

「私たちがするように、こちらの色々な行事やお祭りをまねて楽しんでみては……。」という教授夫人の提案に反対する理由はなく、我々一家は喜んでわかきリシタンになった。立派なクリスマスツリーを飾り、カーニバルの行列にも参加し、五色に色づけした卵を猫柳の枝につるして復活祭もお祝した。このようなキリスト教の代表的行事の中にも、我々日本人の自然観や風習との類似性や共通点がありそうでとても面白かった。

4月、池や小川がぬるみ始めると、根雪の間からスノウドロップが可憐(かれん)な白い花をのぞかせて春の到来を告げる。そして枯木に突然、れんぎょうの黄色い花がパッと咲くと、もくれん、

さくら、りんごの花がこれに続く。自然が一気によみがえる5月は最も美しい季節である。紫色に咲き乱れるリラの花を指差し、「この花が咲くころには、新しい恋が芽ばえるのよ」と教えてくれた。私は思わず期待してしまったが、それ以上は何も起こらなかった。

夏になると、人々は一斉に屋外に出る。バロック風宮殿の庭でモーツァルト音楽祭が開かれるのは6月、民族衣装で着飾った人たちが町中を行列する夏祭りは7月だ。ビュルツブルクの真ん中を流れるマイン川流域は、ワインの産地として有名で、この辺りでとれるワインはフランケンワインと呼ばれる。夏の間、特に8月にはマイン川沿いの村々では順にワイン祭りが開かれる。お祭とはいっても、ただひたすらワインを飲むだけでは何にもすることがないから、子供たちにとってみれば退屈を絵に描いたようなものだ。それでも、子供用のチョコレートやジュース持参で我々一家はよく出かけた。そして居合わせた土地の人々を相手にしながら、ワイン学の勉強にもいそしんだ。



(ビュルツブルクのビュルガーシュピタルで開かれるワイン祭り。人々はとても陽気ですぐ友達になれる。)

9月の終わりごろ、山の斜面が色づきかけるとぶどうの収穫が始まる。ドイツ語でぶどう畑のことを「ワインの山」と言うだけあって、マイン川沿いの北側の山の斜面は一面のぶどう畑だ。この収穫作業は11月中旬ごろまで続くが、それが終わるころ公園の木々も寒い冬に備えて最後の一葉を残すだけとなる。秋はかけ足で過ぎてゆくといった感じだ。フェーダーバイセというほんの一週間程発酵させただけのぶどうのしぼり汁は、この季節にしか飲むことができない。くるみや玉ねぎとベーコンをのせたパイをあてに飲むとこれはたまらない。



(ビュルツブルク郊外。ぶどうの収穫風景)

「食べるものにはおいしいものはありませんよ」と教えられていたので、十分に覚悟はできていた。確かにドイツ料理と聞けば、じゃがいもとソーセージぐらいしか思い浮かばない。ハム、ソーセージ、チーズなどは種類も豊富で、日本のものとは比べものにならないぐらいおいしいし、酢キャベツなども変わっていて悪くはない。しかし、「仏の顔も何とやら……」で、それしかないとなるといささか心も寒くなる。料理は一般に油っこく、味付けがワンパターンで、その量の多さにもいささか閉口した。「ドイツの食事はどうだ？」とドイツ人からよく聞かれた。「少々油断していても、ほ

おべたを落とす心配はない」と答えてそれ以上の説明はしなかった。

終わってみれば2年など、あっという間に過ぎてしまったような気がする。「ドイツは偉大なる田舎の国」と言った知人がいた。なるほどドイツ人は、少々おせっかい過ぎる程親切で、人なつこく、よそ者に対して好奇心が強いが、自分たちの生活はいたって保守的。ぴったりの表現かもし

れない。今年の冬は特に寒かった。それでも帰国が近付いたころには、自然は一斉によみがえり美しく花開いた。私は、ロマンティックな町並、美しい自然、そしてとても親切だった研究室のスタッフや町の人々に再会を約し、後ろ髪を引かれる思いで、この偉大なる田舎の国を後にした。5月22日であった。



(マイン川のほとり。筆者と家族。山上の建物はマリエンベルグ要塞)

特別寄稿

経営分析文献センターの最近の状況について

センター長 片野彦二

経営分析文献センターは、神戸大学経済経営研究所に附置された公開利用施設であり、現在は六甲台第四学舎内に置かれている。

本センターは、経営分析に関する図書・資料及び産業に関する基礎資料を収集・整備し、これを公開利用に供することにより、経営学・経済学を中心とする人文・社会科学研究の向上に寄与することを目的とし、昭和39年4月に設置されたものである。

従来、民間企業に関する資料は、研究機関・企業・産業団体等が個別にその一部を収集・保管するにとどまっておき、系統的に整理・公表されるものは少なかったし、ほとんどが衆目の触れぬ箇所や散在していて、研究上の大きな障害となっていた。そこで、企業経営に関する各分野での研究活動の活性化のために、これらの資料を総合的・系統的に収集・整理するセンターを設置し、その効率的な共同利用を計ることが望まれてきた。

日本学術会議は、かねてより人文・社会科学振興方策の一環として、学術情報システムの整備を取り上げ、学術情報を研究者の共同利用に供する施設としてドキュメンテーション・センターの構想を政府に勧告した(昭和37年5月)。これに対応して、文部省は「人文・社会科学専門文献センター」の設置を計画した。本センターは、このような経緯の中で、東京大学の東洋学文献センター(東洋文化研究所附属:昭和40年4月)及び外国法文献センター(法学部附属:昭和38年4月)、一橋大学の日本経済統計文献センター(経済研究所附属:昭和39年4月)並びに京都大学の東洋学文

献センター(人文科学研究所附属:昭和40年4月)とともに、5文献センターの一つとして発足した。

本センターは、その設立の趣旨に沿って、経営分析に関する文献及び統計資料を系統的に収集・整理し、その所在目録をも作成し公開利用に供してきた。また、これらの一次資料を整理・加工して公開することも意図している。



(文献センター閲覧室)

資料の収集に当たっては、経営分析に必要な内外の資料に重点を置いている。特に、有価証券報告書は、昭和24年以降の東証・大証・名証各第一部・第二部上場企業に関するものをはじめ、昭和37年以降については非上場分をも併せて収集し、既収の明治期から昭和前期にいたる期間の営業報告書及び引き続き業種別に追加収集中の営業報告書とともに考課状文庫を作り上げている。

資料の公開とサービスの提供については、本センターの利用規定によって、公開閲覧とコピー・サービスを行っている。また、所蔵資料目録及び特殊文献目録、並びに経営分析に係る資料についての内外における所在調査目録等を作成し、研究

者に対する情報の迅速な提供を行っている。その他、必要と認められる文献・資料についてのレフェレンス・サービスも実施している。

また、本センターとして多数の刊行物を公表している。特に「本邦主要企業系譜図集」（全5集及び総索引）は、明治期以降現在にいたる日本における主要企業の統合・分散の系譜を集大成したものとして高い評価を受けている。

本センターは、従来、上記のような資料の公開とサービスの提供を、主として資料の現物の閲覧及びコピー・サービスを通して行ってきた。しかし、最近における情報サービスの機械化を考え、本センターとしても所蔵情報のデータベース化を計画しそれを実施に移しつつある。



（「企業経営資料所在目録データベース」の作成作業）

その第一は、「企業経営資料所在目録データベース」の作成であり、これは内外の企業経営に関する資料の所在を、本学所蔵の分は言うまでもなく、全国の図書館その他で所蔵している分も含めて、どこにどのような資料が所蔵されているかの情報をデータベース化しようとするものである。これについては、データベース・システムは本学の総合情報処理センターで開発し、データ・イン

ットを本センターで実施するという形での共同プロジェクトとして進めている。

第二の計画は、「日本多国籍企業データベース」の作成であり、これは文部省特別事業として本センター独自のプロジェクトの形で進められている。現在の段階では、日本の多国籍企業とみなしうる企業72社を選び、それぞれについての国内及び国外での事業活動に係る情報を、入手しうる限りにおいてデータベース化する計画である。また、このデータベースについては、さらに企業数を拡大し、内容を充実させる計画も持っている。

本センターとしては、利用者の便宜を従来以上に配慮し、さらに多くの研究者が利用されることを希望している。

学内ニュース

◇昭和60年度医学部解剖体祭の举行

昭和60年度医学部解剖体祭（神戸医科大学から通算37回目）を10月26日（土）午後1時から、祥福寺（兵庫区五宮町）において行い、溝井学部長をはじめ、来賓、遺族、医学部教職員、学生等約550人が参列し、故人の冥福を祈りました。

この1年間における解剖体数は、系統解剖59体、病理解剖145体、法医解剖114体、その他219体合わせて537体で、神戸医科大学以来18,804体に達しました。



—医学部—

◇第3回工学部公開講座の閉講

第3回工学部公開講座の閉講式を10月26日（土）午後4時40分から、工学部LR105教室において行いました。

本講座は、9月21日から毎週土曜日（午後1時30分～午後5時）に開講したものです。今回は、「21世紀に向けての新しい材料の展望—電子材料と機能性材料を中心として—」をテーマとして、6日間にわたって12講義を行いました。

受講生は、非常に熱心に受講し12講義中8講義以上受講した48名（受講者75名）に修了証書を授与しました。

—工学部—

◇昭和60年度学内レクリエーション「体育大会」及び「囲碁大会」の実施結果

学内レクリエーション行事の一環として、体育大会を10月12日（土）午後1時30分から、教養部グラウンド、体育館、テニスコート及び教育学部体育館において開催しました。

当日は途中から雨が降り出す天候にもかかわらず、各種目に多数の参加者（約400名）を得て白熱した競技を繰り広げました。

なお、庭球については降雨によるコートコンディション不良のため、26日（土）六甲台テニスコートに会場を移して、熱戦を展開しました。

また、囲碁大会を10月26日（土）午後1時から、本部庁舎中会議室において開催しました。

参加者は28名（5段から5級まで）で、それぞれ高位から7名ずつ4組に分かれて個人戦を行いました。多数の応援者の中で一手一手に力が入る熱戦を繰り広げました。

各大会の成績は次のとおりです。

体育大会成績

	ソフト ボール	庭球	バレー ボール	投輪	卓球	バドミ ントン
優勝	A	B	C	B	E	C
第2位	D	C	B	C	D	E
第3位	C	A	E	A	B	A

ブロック構成

A = 事務局、学生部、保健管理センター、
総合情報処理センター

B = 文、理、工、農、附農、文化科学研究科、
自然科学研究科

C = 教、養

D = 法、済、営、図、研

E = 医、病、医技短

囲碁大会成績

優勝 第2位 第3位

- 1組 宇磨谷教明(養) 西川 知一(法) 木村 郁雄(養)
 2組 坂 千秋(満) 堺 貞夫(庶) 名村 元一(農)
 3組 小林 秀恵(口) 水谷 博教 中村 正見(学)
 4組 黒田 嘉昭(理) 藤原 澄春(教) 西畑 孝司(営)
 一人事課一

◇福利厚生用具類の貸出

全学共同利用の貸出物品として下記のものがありますのでお知らせします。利用希望の職員は、人事課福祉掛へお申し込みください。

用具種類	規格・名称等	数量
ラ ジ オ	ソニーソリッドステード NEW11	2
ラ ジ オ	ソニー ICF-M10	4
ラジオ付 カセットテープレコーダー	ナショナルRX-C50	1
マイクロカセット テープレコーダー	サンヨー MR-82	1
タイピン型マイク	同上用	1
トランシーバー		1
マイク ロホン	ソニーワイヤレスマイク	1
ワイヤレスアンプ	ナショナル WX750/2.4	1
ワイヤレスマイク	同上用 WX410 WX480	2 1
電気メガホン	ナショナル	1
ベ ー ス	ソフトボール	2
巻 尺	50m	2
対局時計	チェスロックA-3	20
撮 影 機	サンキョースーパーCM 8m/m ケース付	1
カ メ ラ	ヤシカエレクトロ 35m/m プロフェッショナル ケース付	1
カ メ ラ	オリンパスペン EED ケース三脚付	1
幻 灯 機	ツインキャビンオート 35m/m	1
ス ク リ ー ン	8m/m 映写用	1
双 眼 鏡	ビクセン	2

万 歩 計		5
ポータブル カセットビデオ式	カメラサンヨー VC-500 レコーダーサンヨー VTC-7100SL	1 1
ホームビデオ式	日立マスタックス VT-7 ビデオカメラ 日立 VK-C3000	1 1
発 電 機	マキタ G700	1
ゴルフハーフセット	W.1.3 I.3.5.7.9. SW.P	1式

物 品 名	個 数	物 品 名	個 数
テント(6人用)	14	コ ッ プ	17
〃 (4人用)	5	食 器	6
〃 (3人用)	8	ス コ ッ プ	2
〃 (2人用)	3	マ ナ イ タ	6
リュックサック(大)	5	ナ タ	1
〃 (小)	2	カドニカライト	5
飯 盒	13	ゴムボート(4人用)	3
布 バ ケ ツ	10	ポリタンク(大)	2
ナ ベ	1	〃 (小)	14
ラ ン タ ン	9	釣 竿	5
水 筒	9	ク ー ラ ー	7
コ ッ ヘ ル	7		

ス キ ー 板		ス キ ー 靴	
(cm)	(本)	(cm)	(足)
180	7	27.5	2
175	4	27.0	3
170	7	26.5	6
165	4	26.0	3
160	14	25.5	5
		25.0	4
		24.5	5
		24.0	6
		23.5	4
		23.0	3
		22.5	2
		22.0	1

一人事課一

法 令

◇規則

日本学術会議規則第2号 日本学術会議会則の
一部を改正する規則
(60.11.1 官報)

◇告示

文部省告示第126号 大学入学に関し専修学校
高等課程について文部大
臣が個別に指定した件
(60.10.28 官報)



人 事

◇異 動

所属部員 官 職	氏 名	発令 月 日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
事 務 局 (庶 務 部) (庶 務 課) 文部事務官 (文学部併任)	石 岡 喜久子	11. 1	配置換(経営学部 文部事務官)
(経 理 部) (主 計 課) 文部事務官	佐々木 英 二	11. 1	転任(大阪大学医 療技術短期大学部 文部事務官)
文 学 部 文部事務官	荻 阪 政 雄	11. 1	配置換(経済学部 文部事務官)
〃	上 田 則 子	〃	〃 (教育学部 〃)
教 育 学 部 講 師	城 仁 士	10.16	転任(長崎大学教 育学部講師)
文部事務官	瀬 崎 静 男	11. 1	配置換(入学主幹 付文部事務官)
〃	奥 田 都	〃	〃 (経済学部 〃)
教務補佐員	坂 本 佳津子	10.16	採用
(附 属 住 吉 小 学 校) 教 諭	岡 崎 美枝子	10. 6	臨時的任用
法 学 部 文部事務官	岩 見 浩 二	11. 1	配置換(教育学部 文部事務官)
〃	高 松 肇	〃	〃 (教養部 〃)
〃	阪 本 祐 二	〃	〃 (庶務課 〃)
経 済 学 部 文部事務官	小 泉 雅 彦	11. 1	配置換(法学部文 部事務官)
〃	西 村 信 子	〃	〃 (工学部 〃)
経 営 学 部 文部事務官	黒 田 嘉 昭	11. 1	配置換(理学部文 部事務官)

文部事務官	落合由美子	〃	転任(岡山大学医学部附属病院医事課文部事務官)
理学部教授	藤井忠男	10.6	配置換(東京大学理学部教授)
助手	中西康剛	11.1	採用
教務職員	茶山健二	10.16	〃
文部事務官	塚崎英二	11.1	配置換(医学部文部事務官)
医学部	村尾眞一	10.31	辞職(講師)
文部事務官	玉利勇輔	11.1	配置換(文学部文部事務官)
〃	西橋英夫	〃	〃(工学部)
〃	木下一郎	〃	〃(法学部)
事務補佐員	春井園子	10.16	採用
医学部附属病院	住吉引充	11.1	採用
(中央検査部)	黒山尚美	10.16	〃
技術補佐員	黒田耕司	10.18	併任(昭和62年3月31日まで)
(薬剤部)	岩崎加代子	10.16	臨時の任用
部長	太田望美	〃	採用
(看護部)	高見功	11.1	配置換(医事課文部事務官)
看護婦	松岡實夫	〃	配置換(医療情報処理掛長)
技能補佐員	荻野壽	〃	〃(入院掛長)
(事務部)	藤田崇	〃	〃(法学部文部事務官)
(管理課)	中井美紀	〃	〃(文学部)
文部事務官	雁千代美	10.16	〃(臨時用務員)
技能補佐員	亀岡喜美子	〃	〃(〃)

工学部	小紫裕正	11.1	配置換(医学部文部事務官)
文部事務官	長谷川和子	〃	〃(農学部)
〃	吉見和男	〃	〃(主計課)
〃	田中光	〃	〃(管理課)
〃	西田収	10.2	辞職(教務補佐員)
農学部	南森隆司	11.1	配置換(医学部助手)
助手	河合義隆	〃	採用
〃	松井瑞美	〃	配置換(医事課文部事務官)
(附属農場)	飯尾幸子	〃	10月31日限り退職(技能補佐員)
〃	小谷隆夫	〃	(〃)
教養部	宗像恵	11.1	昇任(講師)
助教授	若島正	10.16	〃(助手)
講師	足立裕	11.1	転任(医療技術短期大学部文部事務官)
文部事務官	栗田達治	11.1	転任(医学部文部事務官)

◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
教育学部	助教授	岩井 正浩	アメリカ合衆国	放送文化の影響による日本伝統音楽の能力・感性に関する研究——日本及びアメリカ合衆国の4タイプの研究——	60.10.8 ↓ 60.10.24	出張
〃	助 手	綿引 勝美	ドイツ民主共和国	ドイツ民主共和国における運動理論の研究	60.10.8 ↓ 60.11.3	研修
附 属 幼稚園	教 諭	奥山登美子	カナダ, アメリカ合衆国, スペイン, ドイツ連邦共和国, フランス	国立大学・学部附属学校等教官海外教育事情視察派遣団の一員としてアメリカ合衆国, カナダ及び欧州の教育, 文化, 社会等の実情視察及び調査	60.10.26 ↓ 60.11.19	出張
法学部	助教授	マルチュケ, ハンス・ペーター	ドイツ連邦共和国	比較法に関する資料収集	60.10.1 ↓ 60.10.27	研修
〃	教 授	木戸 蒨	アメリカ合衆国	第3回ソ連東欧研究世界会議出席並びに東欧に関する研究交換及び資料収集	60.10.25 ↓ 60.11.6	出張
経済学部	〃	池本 清	台 湾	第3回多国籍企業国際コンファレンス出席	60.10.21 ↓ 60.10.25	研修
理学部	助教授	伊勢崎修弘	ソヴィエト連邦	日・ソ シンポジウム出席	60.10.7 ↓ 60.10.15	出張
〃	助 手	乙藤洋一郎	〃	〃	〃	〃
〃	教 授	安川 克己	ミクロネシア連邦	オセアニア海域における水陸総合学術調査	60.10.30 ↓ 60.12.2	〃
〃	助教授(臨海実験所長)	榎本 幸人	〃	〃	〃	〃
〃	文部技官(教務職員)	井口 博夫	〃	〃	〃	〃
医学部	教 授	守殿 貞夫	大韓民国	第2回日韓泌尿器科学会議出席及び膀胱癌に関する研究交換	60.10.3 ↓ 60.10.6	研修
〃	助 手	山崎 浩	〃	〃	〃	〃
〃	教 授	藤原 美定	アメリカ合衆国	第35回皮膚生物学シンポジウム出席及びDNA修復に関する研究交換	60.10.5 ↓ 60.10.13	〃
〃	助教授	渡辺 嘉雄	オーストラリア ニュージーランド	第7回国際動脈硬化学会及び第7回国際動脈硬化学会サテライトシンポジウム出席並びに動脈硬化に関する研究打合せ	60.10.5 ↓ 60.10.15	出張
〃	〃	藤谷 哲造	中華人民共和国	第1回日仏中免疫・アレルギー会議出席及び免疫・アレルギーに関する研究交換	60.10.11 ↓ 60.10.18	研修

医学部	教授	斎藤 洋一	アメリカ合衆国	第71回米国科学会出席	60.10.12 60.10.19	研修
"	"	山口 延男	中華人民共和国	臨床検査医学に関する研究交換	60.10.14 60.10.23	出張
"	"	西塚 泰美	連合王国 フランス	「カルシウムと細胞機能」に関する シンポジウム出席及び生化学に関する 研究交換	60.10.15 60.10.27	"
"	助教授	藤谷 哲造	アメリカ合衆国	第12回国際アレルギー臨床免疫学会 出席及びアレルギーに関する研究交換	60.10.19 60.10.28	研修
"	教授	斎藤 洋一	中華人民共和国	脾疾患に関する研究交換	60.10.23 60.10.30	"
"	"	廣畑 和志	"	整形外科に関する研究交換	60.10.28 60.11. 3	出張
医学部 附属病院	講師	松本 修	大韓民国	第2回日韓泌尿器科学会出席及び 膀胱癌に関する研究交換	60.10. 3 60.10. 6	研修
"	"	濱見 學	"	"	"	"
"	助手	原田 健次	"	"	"	"
"	講師	高野 新二	オーストラリア	第7回国際動脈硬化学会出席及び内 科学に関する研究交換	60.10. 5 60.10.15	"
"	臨床検査 技師長	金山 昭平	中華人民共和国	中国における医療検査部門の管理に 関する意見交換	60.10.14 60.10.23	出張
"	臨床検査 主任技師	三島夫美子	"	中国における臨床検査部門の臨床血 清検査に関する意見交換	"	"
"	"	向井 正彦	"	中国における臨床検査部門の臨床化 学検査に関する意見交換	"	"
"	助手	岡田 弘	アメリカ合衆国	男性不妊に関する研究	60.10.21 61.10.14	研修
"	看護部長	田中 文子	ドイツ連邦共和国 連合王国 アメリカ合衆国	諸外国の大学病院並びに関連病院等 における看護部の組織と看護実践の あり方等についての調査	60.10.26 60.11.16	出張
"	助教授	司馬 良一	中華人民共和国	整形外科に関する研究交換	60.10.28 60.11. 6	"
工学部	"	室崎 益輝	アメリカ合衆国	第1回国際火災学会シンポジウム出 席及び建築防災に関する研究交換	60.10. 6 60.10.15	研修
"	助手	森本 政之	ドイツ連邦共和国	空間音響に関する研究	60.10.10 61. 8. 9	出張

工学部	助手	中村 伴之	アメリカ合衆国	ファジー集合論の土木工学適用に 関するワークショップ出席及び橋工学 に関する資料収集	60.10.10 60.10.20	研修
"	助教授	小澤 守	"	第3回国際原子炉伝熱流動会議出席 及び気液二相流のダイナミクスに 関する研究調査	60.10.13 60.10.27	"
"	教授	中前 勝彦	フランス イタリア ドイツ連邦共和国	第4回ヨーロッパ眼内レンズ会議及び 日伊眼内レンズシンポジウム出席並 びに高分子化学に関する研究交換	60.10.20 60.11. 2	"
"	助教授	猪飼 靖	中華人民共和国	材料の微細組織と機械的性質に 関する国際シンポジウム出席及び金属疲 労に関する研究交換	60.10.20 60.10.27	"
"	教授	村上 温夫	"	中国政府の招待による中国における 教育事情調査	60.10.31 60.11. 9	出張
農学部	"	河本 正彦	ドイツ連邦共和国 オランダ、スイス イタリア、フランス	ヨーロッパ諸国における製糖化学に 関する新しい技術、情報の実地調査 及び意見交換	60.10. 3 60.11. 4	"
経済経営 研究所	助教授	下村 和雄	オーストラリア ニュージーランド	国際分業と各国労働市場の構造との 関係についての理論的・実証的研究	60.10.14 61. 8. 9	"
自然科学 研究科	助手	宮本 文穂	アメリカ合衆国	ファジー集合論の土木分野への適用 に関するワークショップ出席及びコン クリート構造物の維持、補修に 関する研究調査	60.10.10 60.10.28	研修
医療技術 短期大学 部	教授	佐藤 英一	中華人民共和国	内科学に関する研究交換及び中国に おける医療技術に関する研究交換	60.10.14 60.10.23	出張
"	助教授	片岡 陳正	"	微生物学に関する研究交換及び中国 における医療技術に関する研究交換	"	"



◇研修等

※昭和60年度国立学校等幹部職員研修（課長級）

期 間 昭和60年10月1日～10月4日

会 場 国立教育会館大会議室

主 催 文部省

参加者 教育学部事務長 橋本英雄

医療技術短期大学部 事務長

尾崎 豊

※第36回文部省会計事務特別研修

期 間 昭和60年9月30日～10月19日

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 催 文部省

参加者 経理部主計課司計掛 寺田 明

理学部会計掛 黒田嘉昭

法学部会計掛 小野雅章

※第19回近畿地区JST（標準課程）指導者養成研修

期 間 昭和60年10月15日～10月24日

会 場 大阪合同庁舎第2号館

主 催 人事院近畿事務局

参加者 庶務部人事課 課長補佐 堺 貞夫

※昭和60年度近畿地区国立学校等係長研修

期 間 昭和60年10月21日～10月24日

会 場 祝戸荘（飛鳥研修宿泊所）

主 催 文部省、奈良教育大学、和歌山大学及び奈良女子大学

参加者 次のとおり

庶務部人事課給与掛長 山角 盟

教育学部 用度掛長 高井 進

法学部 会計掛長 古川卓見

医学部附属病院管理課

施設掛長 河内克弘

〃 医事課

医事掛長 大橋利一

経済経営研究所 図書掛長 前田哲治

医療技術短期大学部

教務学生掛長 佐藤祥二

※昭和60年度近畿地区（B）国立学校事務電算化担当職員研修会

期 間 昭和60年10月21日～10月30日

会 場 大阪大学事務局及び関西地区大学セミナーハウス

主 催 文部省及び大阪大学

参加者 経理部経理課用度掛 曾我部秀昭

医学部附属病院医事課

医療情報処理掛 大伴 登

法学部 第二課程掛 吉原 直樹

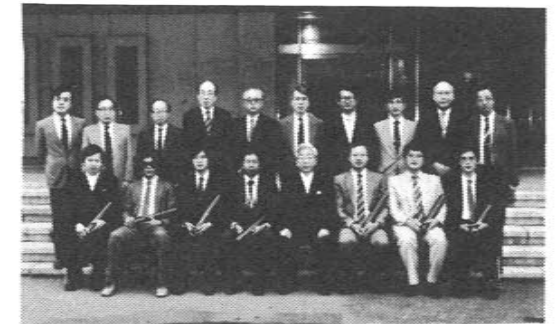
工学部 経理掛 福井 浩司

学 事

◇学位授与

10月14日（月）午前10時30分から学長室において、学術博士、法学博士、経営学博士及び理学博士の学位記授与式を行いました。

学位を授与された者の氏名、論文題目等は次のとおりです。



氏 名	学位の種類	授与年月日	論 文 題 目
MUHAMMAD TOLA	学術博士（課程）	昭和60年10月15日	STUDY OF MODEL EQUATIONS OF FLUORESCENT LAMPS (けい光ランプのモデル式に関する研究)
鬼 頭 考 治	〃	〃	自脱コンパインの最適走行制御
DEESW ASMON-GKOL NIYOM	〃	〃	Study on toppling of rock slopes by physical modelings (模型実験による岩盤斜面の転倒破壊に関する研究)
FATNASSI Abdelmajid	〃	〃	Nonaxisymmetric bifurcation behaviour of thin axisymmetric bodies subjected to axisymmetric forming (薄肉軸対称体の成形中に発成する非軸対称分岐に関する研究)
李 炯 喆	法学博士（課程）	昭和60年9月18日	十五年戦争期における政軍関係
王 耀 鐘	経営学博士（論文）	〃	デシジョン・サポート・システム（DSS）に対する一考察——競争戦略の策定過程への適用を中心として——
小 川 治 雄	理学博士（論文）	昭和60年9月27日	基質の吸着状態を利用する高選択的反応

◇学位取得

このたび、本学教官に対し、下記のとおり学位が授与されました。

氏 名 (所属・職名)	学位の種類	授与年月日 授与大学名	論 文 題 目
杉 村 延 広 (工学部・助手)	工学博士	昭和60年3月4日 大 阪 大 学	機械加工における工程設計の自動化に関する研究
伊 藤 邦 武 (文学部・助教授)	文学博士	昭和60年3月23日 京 都 大 学	パースのプラグマティズム —可謬主義的知識論の展開としての意味と探究とに関する理論—

◇昭和61年度大学院入学試験合格者調

◎修士課程

研究科名	専攻名		募集人員	合格者		数		
				男	女	計		
教育学研究科	学校教育専攻		10名	4名	△1名	2名	△1名	6名
	国語教育専攻		5	5		1		6
	社会科教育専攻		10	6		3		9
	数学教育専攻		5	5		1		6
	理科教育専攻		10	5		1		6
	音楽教育専攻		5			6		6
	美術教育専攻		5	4		3		7
	保健体育専攻		5	1		1		2
	技術教育専攻		5	5				5
	英語教育専攻		5	3				3
	計		65	38	△1	18	△1	56
理学研究科	数学専攻		約10	8		1		9
	物理学専攻		約10	14				14
	化学専攻		約10	10		1		11
	生物学専攻		約10	9		4		13
	地球科学専攻		約10	9		3		12
	計		約50	50		9		59
工学研究科	建築系	建築学専攻	27	34	△1	2	△1	36
		環境計画学専攻						
	電気系	電気工学専攻	24	32				32
		電子工学専攻						
	機械系	機械工学専攻	27	39				39
		生産機械工学専攻						
	土木工学専攻		24	33		1		34
	工業化学専攻		12	16				16
	計測工学専攻		12	18		2		20
	化学工学専攻		12	15				15
	システム工学専攻		12	14		3		17
計		150	201	△1	8	△1	209	
農学研究科	園芸農学専攻		16	19				19
	植物防疫学専攻		8	13				13
	農業工学専攻		10	2				2
	農芸化学専攻		12	17		1		18
	畜産学専攻		12	7				7
	計		58	58		1		59
合計			323	347	△2	36	△2	383

△印は、外国人特別学生を外数で示す。

◎博士課程前期課程

研究科名	専攻名	募集人員	合格者数					
			男	女	計			
法学研究科	私法専攻	22以内	△2	1	△1	△3	1	
	公法専攻	28以内	△1	4	3	△1	7	
	計	50以内	△3	5	△1	3	△4	8
経済学研究科	経済学・経済政策専攻	32		7			7	
	国際経済専攻	19		3	1		4	
	計	51		10	1		11	
経営学研究科	経営学専攻	19	△1	3		△1	3	
	会計学専攻	15		2			2	
	商学専攻	16	△2	1		△2	1	
	計	50	△3	6		△3	6	
合計		151	△6	21	△1	4	△7	25

△印は、外国人特別学生を外数で示す。

◎後期3年博士課程

研究科名	専攻名	募集人員	合格者		数
			男	女	計
自然科学研究科	物質科学専攻	10	3	1	4
	生産科学専攻	10	△3 3		△3 3
	資源生物科学専攻	7	3	△1	△1 3
	環境科学専攻	7	6		6
	システム科学専攻	7	△1 3	△1	△2 3
	計	41	△4 18	△2 1	△6 19

△印は、外国人特別学生を外数で示す。

◇昭和60年度卒業生数調

学 部 名	学 士 号	卒 業 者 数			卒 業 年 月 日
		男	女	計	
文 学 部	文 学 士	2 名	2 名	4 名	60.10.15 付
教 育 学 部	教 育 学 士	7		7	
法 学 部	法 学 士	1	3	4	
法学部第二課程	法 学 士	10	1	11	
経済学部第二課程	経 済 学 士	6		6	
経 営 学 部	経 営 学 士	2		2	
	商 学 士	1		1	
経営学部第二課程	経 営 学 士	2		2	
	商 学 士	3		3	
理 学 部	理 学 士	2		2	60. 8.31 付
医 学 部	医 学 士	1		1	
計		37	6	43	

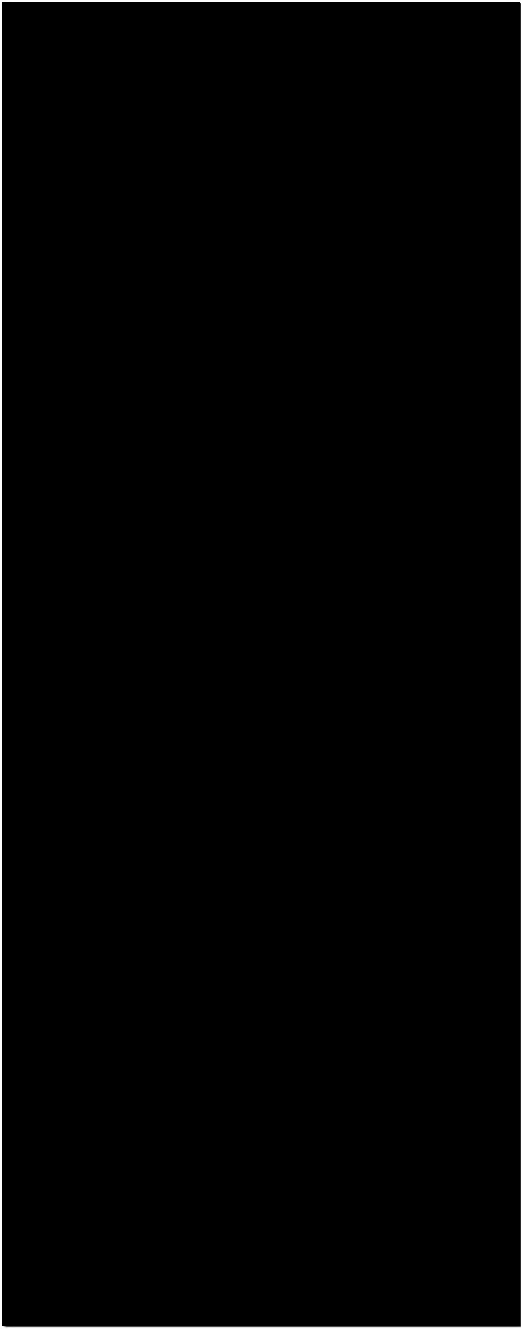
◇昭和60年度大学院修了者数調

研究科名	学位名	専攻名	修了者数			修了年月日
			男	女	計	
教育学研究科	教育学修士	美術教育専攻	1名	名	1名	60.10.15付
理学研究科	理学修士	物理学専攻	1		1	
工学研究科	工学修士	電気工学専攻	1		1	
自然科学研究科	学術博士	物質科学専攻	1		1	
		生産科学専攻	3		3	
計			7		7	

掲 示 板

◇職員の住所変更等

・新任者住所



・住所・住居表示変更

p.109

p.213

p.216

p.218



◇改 姓

部 局	官 職	氏 名	改 姓 年月日	旧 姓

◇受入れ刊行物案内

刊 行 物 名	編集・発行者等	所 管
松山商科大学六十年史 (資料編)	松山商科大学	庶務課
開学十周年記念誌	宮崎医科大学	〃
開学10周年記念誌	島根医科大学	〃
島津製作所百十年史	株式会社島津製作所	〃
多木化学百年史	多木化学株式会社	〃
足利銀行史	足利銀行調査部	〃
商品取引年鑑	米穀新聞社	〃
日本不動産鑑定協会 20年史	社団法人日本不動産 鑑定協会	〃
建業四十年	(株)時事通信社	〃
日刊工業新聞七十年史	(株)日刊工業新聞 社	〃

日 誌	
(昭和60年10月)	
10月3日(木)	部局長会議
12日(土)	学内レクリエーション共通行事 「体育大会」
14日(月)	博士学位記授与式(法学研究科, 経営学研究科,自然科学研究科) 学内人事事務監査 (10月18日(金)まで)
26日(土)	昭和60年度神戸大学医学部解剖体 祭 学内レクリエーション共通行事 「囲碁大会」

